

記入日： 年 月 日

記入者： _____

「豚の飼養管理に関する技術的な指針」に関するチェックリスト

このチェックリストは、「豚の飼養管理に関する技術的な指針」のうち、アニマルウェルフェアの考え方を満たす飼養管理のために必要な項目である【実施が推奨される事項】を抜粋し、農場内での飼養管理がアニマルウェルフェアの考え方に対応しているかどうかを定期的にチェックしていただくために作成したものです。

現在、既に行っている場合は「はい」に、行っていない場合は「いいえ」に印を付けてください。「いいえ」である項目については、改善のための検討等を行っていただき、豚にとって快適な状態の提供に向けて改善を進めていただくことが必要となります。

1つのチェック項目の中に複数の実施事項がある場合、全て既に行っている場合にのみ「はい」に印を付けてください。

なお、設問等の内容で御不明な点がある場合は、指針の本文を御参照ください。

第1 管理方法

1 観察・記録

チェック項目	はい	いいえ
① 1日1回以上、飼養環境や健康状態の悪化の兆候がないか確認していますか（例：飼料、水、換気、照明、敷料、体調、採食の状態、損傷や尾かじりの発生状況、行動等）。	☐	☐
② 飼養管理に関する記録（日誌や報告書等）を毎日つけていますか（例：豚の健康状態、疾病及び事故の発生の有無並びにその原因、繁殖成績、温度等）。	☐	☐

2 豚の取扱い

チェック項目	はい	いいえ
① 豚に不要なストレスを与える突発的な行動や、手荒な扱いを避け、可能な限り丁寧に取り扱っていますか。	☐	☐
② 異なる群で飼養されていた豚を混合することは可能な限り避けていますか。混合した場合は通常よりも注意して観察していますか。	☐	☐
③ 豚を移動させる際、苦痛を与えるおそれのある器具等を可能な限り使わないようにしていますか。	☐	☐
④ 拘束は必要な時間だけ行い、適切に保守・整備された器具のみを使用していますか。	☐	☐

3 繁殖（実施している場合はお答えください 該当しない ☐）

チェック項目	はい	いいえ
① 未経産の繁殖雌豚は十分な身体的成熟に達してから繁殖に供していますか。	☐	☐

チェック項目	はい	いいえ
② 家畜人工授精や家畜受精卵移植を行う場合、適期での授精や移植に努め、可能な限り苦痛を生じさせないよう、獣医師や家畜人工授精師等の適性を有する者が行っていますか。	☐	☐
③ 種雄豚を自然交配に使用する場合、スリップ等による損傷が発生しないようにしていますか。※自然交配に使用していない場合はチェック不要	☐	☐

4 分娩（実施している場合はお答えください 該当しない ☐)

チェック項目	はい	いいえ
① 妊娠している繁殖雌豚は、分娩が始まる前の適切な時期に分娩区域に移動させていますか。	☐	☐
② 分娩予定日が近い繁殖雌豚は、観察頻度を増やしていますか。	☐	☐
③ 分娩区域の床は、清潔で乾燥した状態にしていますか。	☐	☐
④ 新生子豚にとって快適で暖かく、安全な環境を準備していますか。	☐	☐
⑤ 分娩予定日の少なくとも1日前には分娩区域に繁殖雌豚が利用できる巣材を提供していますか。	☐	☐
⑥ 分娩介助等を行う場合、十分な広さを確保するとともに、十分な知識と技術を持った飼養者等を必要な人数確保する体制ができていますか。	☐	☐

5 新生子豚の管理

(1) 去勢（実施している場合はお答えください 該当しない ☐)

チェック項目	はい	いいえ
① 去勢は、訓練を受けた者が、豚の痛み、苦痛を可能な限り少なくする方法で、できるだけ早期に行っていますか。	☐	☐
② 去勢を行う際、感染症に罹らないための予防を行っていますか。	☐	☐
③ 去勢の実施後は豚を注意深く観察し、化膿等が見られる場合、速やかに手当又は治療を行っていますか。	☐	☐

(2) 断尾（実施している場合はお答えください 該当しない ☐)

チェック項目	はい	いいえ
① 断尾は、訓練を受けた者が、豚の痛み、苦痛を可能な限り少なくする方法で、できるだけ早期に行っていますか。	☐	☐
② 断尾を行う際、感染症に罹らないための予防を行っていますか。	☐	☐
③ 断尾の実施後は豚を注意深く観察し、化膿等が見られる場合、速やかに手当又は治療を行っていますか。	☐	☐

(3) 歯切り（実施している場合はお答えください 該当しない ☐)

チェック項目	はい	いいえ
① 歯切りは、訓練を受けた者が、豚の痛み、苦痛を可能な限り少なくする方法で、できるだけ早期に行っていますか。	☐	☐
② 歯切りを行う際、感染症に罹らないための予防を行っていますか。	☐	☐

チェック項目	はい	いいえ
③ 歯切りは、歯の先端のみをやすりで研磨したりニッパーで切断していますか。	☐	☐
④ 歯切りの実施後は豚を注意深く観察し、化膿等が見られる場合、速やかに手当又は治療を行っていますか。	☐	☐

6 離乳（実施している場合はお答えください 該当しない □）

チェック項目	はい	いいえ
① 通常、3週齢以上で離乳していますか。	☐	☐
② 疾病管理のために早期離乳を行う場合、子豚の生理学的特性を十分に理解し、必要な設備を備えた上で行っていますか。※早期離乳していない場合はチェック不要	☐	☐
③ 離乳舎は、消毒され、清潔で乾燥した暖かい環境にしていますか。	☐	☐
④ 離乳後2週間は体調不良又は異常なストレスの兆候がないか注意して観察していますか。	☐	☐

7 個体識別（実施している場合はお答えください 該当しない □）

チェック項目	はい	いいえ
① 耳刻、耳標等は、訓練を受けた者が、豚の痛み、苦痛を可能な限り少なくする方法で、できるだけ早期に行っていますか。	☐	☐
② 耳刻、耳標等を行う際、感染症に罹らないための予防を行っていますか。	☐	☐
③ 耳刻、耳標等の実施後は豚を注意深く観察し、化膿等が見られる場合、速やかに手当又は治療を行っていますか。	☐	☐

8 牙切り（実施している場合はお答えください 該当しない □）

チェック項目	はい	いいえ
① 牙切りは、訓練を受けた者が、豚の痛み、苦痛を可能な限り少なくする方法で行っていますか。	☐	☐
② 牙切りを行う際、感染症に罹らないための予防を行っていますか。	☐	☐
③ 牙切りの実施後は豚を注意深く観察し、化膿等が見られる場合、速やかに手当又は治療を行っていますか。	☐	☐

9 疾病、事故等の措置

チェック項目	はい	いいえ
① 疾病及び健康問題の予防及び治療に関する計画を整備していますか。	☐	☐
② 疾病に罹患した豚及び損傷した豚を識別し適切に対処する知識を習得していますか。	☐	☐
③ 豚へのワクチン接種及び治療は、獣医師の指導の下、豚の痛みや恐れに配慮した手法により行っていますか。※獣医師にワクチン接種及び治療を依頼している場合は「はい」にチェック	☐	☐

チェック項目	はい	いいえ
④ 疾病に罹患し、又は損傷しているおそれのある豚が確認された場合、可能な限り丁寧に移動させ、分離し、迅速に手当を行っていますか。	☐	☐
⑤ 疾病に罹患した豚又は損傷した豚について、治療、緊急出荷又は安楽死させるかどうかを決定するため、獣医師による速やかな診断を受けていますか。	☐	☐
⑥ 獣医師の診断を踏まえ、判断権限がある者が豚を安楽死させることを決定した場合、「家畜の農場内における安楽死に関する技術的な指針」を参照し適切に行っていますか。※安楽死を獣医師に依頼する場合は「はい」にチェック ※安楽死をさせたことがない場合はチェック不要	☐	☐

10 豚舎等の清掃・消毒

チェック項目	はい	いいえ
① 豚舎の清掃、洗浄及び消毒を行い、施設、設備等を清潔に保っていますか。	☐	☐
② 排せつ物は適切に取り除き、豚にとって快適な環境を提供していますか。	☐	☐
③ オールイン・オールアウトを行う場合、新しい群の導入前に洗浄、消毒及び乾燥を行っていますか。※オールイン・オールアウトを行っていない場合はチェック不要	☐	☐

11 農場内における防疫措置等

チェック項目	はい	いいえ
① 家畜伝染病予防法に基づく「飼養衛生管理基準」を遵守するとともに、「飼養衛生管理マニュアル」を作成し、その実施と定期的な見直しを行っていますか。また、日常から伝染性疾患の発生予防に必要な知識を習得していますか。	☐	☐
② 豚に異状が認められた場合、獣医師等に相談するとともに、家畜伝染病予防法に基づく特定症状が確認された場合、直ちに家畜保健衛生所に通報する体制ができていますか。	☐	☐
③ 病原体を伝播する有害動物や吸血昆虫、外部寄生虫の侵入及び発生を防止するとともに、発生時は速やかに駆除していますか。	☐	☐

12 管理者等のアニマルウェルフェアへの理解等の促進

チェック項目	はい	いいえ
① アニマルウェルフェアの指標や改善方法について知識と技術を習得していますか。	☐	☐
② 豚の健康及び良好な飼養環境を確保するため、十分な人数の飼養者等を確保していますか。	☐	☐

第2 栄養

1 必要栄養量・飲水量

チェック項目	はい	いいえ
① 発育段階等に応じて飼料及び水を毎日過不足なく給与し、適正なボディコンディションの範囲を逸脱しないように管理していますか。	☐	☐
② 胃潰瘍の発生を最小限に抑えるため、食物繊維や粗タンパク質の量、飼料の粒子の粗さを調整していますか。	☐	☐

2 飼料・水の品質の確保

チェック項目	はい	いいえ
① 給餌及び給水の設備は、機器の製造メーカーの推奨する頻度を考慮して、定期的に点検及び清掃を行っていますか。	☐	☐
② 水は、夏季の高温や冬季の凍結に注意していますか。	☐	☐
③ 飼料及び飼料原料は、その品質を確保し、適切に管理するとともに、豚の健康に悪影響を与える物質の有無について適宜検査していますか。※検査は購入先の添付書類等で確認した場合を含む、	☐	☐
④ ネズミ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が飼料及び水に混入しないよう対策していますか。	☐	☐

3 給餌・給水方法

チェック項目	はい	いいえ
① 給餌及び給水の設備は、全ての豚が必要な量の飼料、水及び栄養を問題なく摂取できるようにしていますか。	☐	☐
② 豚を新たに豚舎へ導入した場合、飼料や水を摂取できていることを確認していますか。	☐	☐
③ 給餌時間は、可能な限り毎日同じ時間としていますか。	☐	☐
④ 飼料を変更する場合、計画的かつ段階的に行っていますか。	☐	☐

第3 豚舎

チェック項目	はい	いいえ
① 気象環境の変動によって豚舎内の温度及び湿度が大きく変化しないよう維持及び管理していますか。	☐	☐
② 豚舎の破損個所によって豚が損傷しないよう修理を行うなどしていますか。	☐	☐
③ 豚舎は、安全かつ効率的に、苦痛を与えないよう豚を管理し、豚が動けるようにしていますか。	☐	☐
④ 疾病に罹患した、損傷した又は異常行動を示す豚を治療や観察するための隔離豚房を設けていますか。	☐	☐

チェック項目	はい	いいえ
⑤ 野生動物、ネズミ、ハエ等の有害動物の侵入や発生を防止するよう管理していますか。	☐	☐
⑥ 日常の飼養管理や豚の観察が行いやすい構造になっていますか。	☐	☐

第4 飼養方式、構造及び飼養空間

1 飼養方式

(1) 単飼（ストール、囲い・おり）方式（実施している場合はお答えください 該当しない ☐）

チェック項目	はい	いいえ
① つなぎで（係留して）飼養しないようにしていますか。	☐	☐
② 囲い・おり等で個別に飼養する場合、その中は自然な姿勢での起立、方向転換、快適な横臥が可能であり、排せつ、摂食のための個別のエリアが確保できる十分な空間がありますか。※囲い・おり等で個別に飼養していない場合はチェック不要	☐	☐
③ ストールで飼養する場合、両端に同時に触れることなく、かつ上の棒にぶつかることなく自然な姿勢で起立できるとともに、隣の豚を邪魔したりせず快適に横臥できる適切な大きさですか。※ストールで飼養していない場合はチェック不要	☐	☐
④ 視覚的、嗅覚的及び聴覚的に、他の豚を感知できるようにしていますか。	☐	☐

(2) 群飼方式（実施している場合はお答えください 該当しない ☐）

チェック項目	はい	いいえ
① 全ての豚が同時に横臥し、立ち上がって自由に動き、飼料や水を摂取でき、休息場所と排せつ場所が分離され、攻撃的な豚を避けられる十分な空間がありますか。	☐	☐
② 非常に攻撃的な豚がいた場合、逃げられるように空間の余裕を増やしたり、攻撃的な豚を個別に収容する等、是正措置を講じる体制ができていますか。	☐	☐
③ 群編成の際は、過度な闘争や損傷を防ぐための措置を講じていますか（例：なじみのある個体と一緒にする、群編成の回数を可能な限り少なくする等）。	☐	☐

(3) 放牧方式（実施している場合はお答えください 該当しない ☐）

チェック項目	はい	いいえ
① 良好な衛生状態を確保し、疾病や損傷のリスクを抑えるため、豚を放牧場間で適切に移動させていますか。	☐	☐
② 暑熱ストレス等を避けるための避難小屋等を設置していますか。	☐	☐

2 床の構造等

チェック項目	はい	いいえ
① 豚舎の床は、排水性が良く、表面が乾燥しやすい構造ですか。また、突起やスリップ等による損傷の発生を防止し、豚にとって快適で安全な状態となっていますか。	☐	☐
② ゴムマット等の床材、敷料、寝床の表面及び屋外のパドックは、清潔で乾燥した良好な衛生状態を維持していますか。	☐	☐

3 飼養空間

チェック項目	はい	いいえ
① 同じ豚群の全ての豚に対して、妨げられることなく、同時に横臥し、休息し、起立するために十分な空間を与えていますか。	☐	☐
② 異常な行動が見られる場合、飼養空間の再設定等の是正措置を講じていますか。	☐	☐

第5 豚舎の環境

1 熱環境

チェック項目	はい	いいえ
① 豚の快適な温度、湿度を維持するよう努めていますか。	☐	☐
② 新生子豚や若齢豚、疾病に罹患した豚には保温対策を行っていますか。	☐	☐

2 換気

チェック項目	はい	いいえ
豚舎内で作業を行う管理者等が、豚の頭の高さで臭気を不快に感じる状態とならないよう、豚舎全体に、常に新鮮な空気を供給していますか。	☐	☐

3 照明

チェック項目	はい	いいえ
① 豚の正常な行動や飼養者等の日常作業に支障が生じないよう、適切な照明設備等を設置していますか。	☐	☐
② 光線管理を行う際、24 時間周期とし、連続した明るい時間と暗い時間（それぞれ6 時間以上が望ましい）が含まれるよう設定していますか。※光線管理を行っていない場合はチェック不要	☐	☐

4 騒音

チェック項目	はい	いいえ
豚舎内外の設備等による騒音や突然の大きな騒音は、可能な限り小さくするよう、設置及び維持・運用していますか。	☐	☐

5 飼養環境の改良

チェック項目	はい	いいえ
豚が遊べるものを与えたり、人間との触れ合いの機会を設ける等飼養環境の向上に努めていますか。	☐	☐

第6 アニマルウェルフェアの状態確認等

1 アニマルウェルフェアの状態確認

チェック項目	はい	いいえ
本チェックシートを用いて定期的に現状の飼養管理を確認していますか。	☐	☐

2 設備の点検・管理

チェック項目	はい	いいえ
設備が正常に作動しているか少なくとも1日1回点検し、故障を発見した場合、迅速に修理していますか。	☐	☐

3 緊急時の対応

チェック項目	はい	いいえ
① 自然災害等に備えるため、緊急時計画又は危機管理マニュアル等を整備し、習熟するとともに、全ての関係者と共有していますか。	☐	☐
② 警報や発電機などの予備システムは、機器の製造メーカーの推奨する頻度を考慮し、定期的に点検していますか。※緊急時に予備システム等が必要であるが整備していない場合は「いいえ」にチェック ※予備システム等が不要な場合はチェック不要	☐	☐
③ 自然災害等の影響により、豚や豚舎等に被害が生じるおそれがある場合、可能な限り、事前に対策をとっていますか。	☐	☐

豚にとって快適な状態であるかを確認するためのチェックリスト

このチェックリストは、豚が快適な状態であるかを確認するための指標です。「豚の飼養管理に関する技術的な指針に関するチェックリスト」を記述した際に、併せてチェックしてください。そのほか、飼養環境が変化した際など、適宜チェックしてください。

「はい」の項目がある場合は、獣医師や専門家等に意見を求めるとともに、日常の管理方法や栄養、豚舎等に問題がないかを再確認しましょう。

第1 餌・水

チェック項目	はい	いいえ
① 極端にボディコンディションが悪い豚（太りすぎ、やせすぎ）がいる。	☐	☐
② 極端に体重が減少した豚（飼料を摂取していない豚）がいる。	☐	☐
③ 消化系疾病（下痢等）の兆候のある豚が増えている。	☐	☐
④ 発育不良等が原因で安楽死させる豚が増えている。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、給餌・給水方法、離乳方法等の再確認が必要です。

第2 恐怖

チェック項目	はい	いいえ
① 攻撃行動が激しい豚がいる。	☐	☐
② 管理者等に対し、過度な反応を示す豚がいる。	☐	☐
③ 甲高い鳴き声を発している豚がいる。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、豚の取扱方法、飼養方法等の再確認が必要です。

第3 物理的環境

チェック項目	はい	いいえ
① 速く不規則な呼吸や持続的な喘ぎを行っている豚がいる。	☐	☐
② 体が震えている豚がいる。	☐	☐
③ 体が著しく汚れている豚がいる。	☐	☐
④ 移動中に足を滑らせている豚がいる。	☐	☐
⑤ 異常な脱毛や、皮膚の変色等が見られる豚がいる。	☐	☐
⑥ 肩に潰瘍やひどい傷等がある豚がいる。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、暑熱・寒冷対策の再確認や換気設備、豚舎施設の点検・整備等が必要です。

第4 苦痛・傷害・損傷

チェック項目	はい	いいえ
① 疾病や損傷が見られる豚が増えている。	☐	☐
② 異常な姿勢（過度に背中を丸めている等）の豚が多くいる。	☐	☐
③ 跛行している（正常な歩行ができない）豚が多くいる。	☐	☐
④ 歯切りや去勢等の処置後に合併症を引き起こしている豚がいる。	☐	☐
⑤ 寄生虫やハエ等の発生が多く見られる。	☐	☐
⑥ 繁殖成績（受胎率・流産率・産子数等）が著しく悪い豚が増えている。	☐	☐

チェック項目	はい	いいえ
⑦ 廃用にする豚や死亡する豚が増えている。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、豚舎施設の点検・整備、外科的処置の実施方法等の再確認が必要です。

第5 行動

チェック項目	はい	いいえ
① 同じ行動や行為を目的もなく何度も繰り返し続ける豚がいる。	☐	☐
② その他の異常行動（尾かじり等）を起こしている豚がいる。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、床の状態、飼養空間等の再確認が必要です。